

# 平成17年度事業報告書

社団法人瀬戸内海環境保全協会

## I 一般事項

### 1. 会議等の開催

(1) 通常総会（平成17年5月25日 ラッセホール）

① 受賞者表彰（瀬戸内海環境保全月間ポスター公募最優秀賞等）

最優秀賞（環境大臣賞）

山崎 真琴（やまさき まこと） 香川県 高松市立林小学校2年生

優秀賞（瀬戸内海環境保全協会会長賞）

子供部門 濱崎 雄飛（はまさき ゆうひ） 兵庫県 加古川市立野口小学校4年生

一般部門 岩尾 茜（いわお あかね） 大分県 県立日出暘谷高等学校3年生

② 総会議事

- ・平成16年度事業報告及び収支決算
- ・平成17年度会費
- ・平成17年度事業計画及び収支予算
- ・国に対する要望
- ・役員の変更

③ 特別講演会

講演：瀬戸内海の再生に向けて

講師：瀬戸内海研究会議会議長 広島大学名誉教授 松田 治

(2) 理事会

① 第78回理事会（平成17年5月18日 ラッセホール）

- ・会員の入会承認（東大阪市）
- ・専門委員会委員の委嘱
- ・通常総会付議事項

② 第79回理事会（平成18年3月17日 ラッセホール）

- ・職員給与規則の一部改正
- ・職員旅費規則の一部改正
- ・平成17年度収支予算の補正
- ・会員の入会承認（下関市）
- ・平成17年度事業実施状況
- ・協会会費のあり方（企画委員会報告）
- ・平成18年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

### ①企画委員会

- ア 第75回企画委員会（平成17年7月28日 国際健康開発センター）
  - ・協会の会費について
  - ・平成17年度事業計画の進め方について
  - ・協会設立30周年記念事業について
- イ 第76回企画委員会（平成17年8月30日 国際健康開発センター）
  - ・協会の会費について
  - ・瀬戸内海再生方策及び法整備について
- ウ 第77回企画委員会（平成17年12月26日 国際健康開発センター）
  - ・協会の会費のあり方に関する企画委員会報告とりまとめについて
  - ・協会設立30周年記念事業について
- エ 第78回企画委員会（平成18年2月22日 国際健康開発センター）
  - ・協会会費のあり方（企画委員会報告）について
  - ・平成17年度事業実施状況について
  - ・平成18年度事業計画（案）について

### ②調査委員会（平成18年2月7日 ホテル日航奈良）

- ・平成17年度瀬戸内海環境情報基本調査結果について
- ・平成18年度新規調査計画（案）について

### ③編集委員会

- ア 第1回編集委員会（平成17年7月26日 兵庫県民会館）
  - ・協会総合誌「瀬戸内海」第43～45号の原稿収集について
- イ 第2回編集委員会（平成18年1月31日 兵庫県民会館）
  - ・協会総合誌「瀬戸内海」第45～47号の原稿収集について

### ④賛助会員事業部会（平成17年9月30日 国際健康開発センター）

- ・平成17年度賛助会員に関する事業計画について
- 事業部会：関西電力(株)、川崎重工業(株)、(株)神戸製鋼所、マツダ(株)、四国電力(株)  
総合科学(株)、東和科学(株)、山口県瀬戸内海環境保全協会

### (4) 参事・事務局長並びに担当課長会議（平成18年2月28日 兵庫県民会館）

- ・平成17年度事業実施状況について
- ・平成18年度事業計画（案）について
- ・会員相互の情報交換

## 2. 専門委員の委嘱

企画委員、調査委員、編集委員を委嘱した。

### (1) 企画委員（11名）

武村 憲二	大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長
富岡 寛美	兵庫県健康生活部環境局水質課長

稲田 英明	広島県環境生活部環境創造総室環境調整室長
大森 利春	香川県環境森林部次長兼環境管理課長
木下 通夫	大分県生活環境部環境保全課長
中野 泰三	大阪市都市環境局技術監兼環境情報課長
菅原 通直	神戸市環境局主幹（水環境保全担当課長）
矢野 徳松	松山市環境部環境指導課長
宮本 寿	愛媛県漁業協同組合連合会専務理事
岡崎 進	(社)大阪エフボランタリーネットワーク事務局長
木原 敏博	(財)広島県環境保健協会常務理事

(2)調査委員（11名）

村井 保徳	大阪府環境情報センター所長
吉村 幸男	兵庫県立健康環境科学研究所センター所長
錦見 盛光	和歌山県環境衛生研究センター所長
小倉 肇	岡山県環境保健センター所長
高田三千人	広島県保健環境センター所長
宮村 恵宣	山口県環境保健研究センター所長
三木 教碩	徳島県保健環境センター所長
藤田 淳二	香川県環境保健研究センター所長
井上 博雄	愛媛県立衛生環境研究所所長
吉村 健清	福岡県保健環境研究所所長
吉武 史朗	大分県衛生環境研究センター所長

(3)編集委員（16名）

秋山 和裕	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室室長補佐
岩田 健治	東和科学（株）取締役事業経営本部副本部長
英保 次郎	兵庫県立健康環境科学研究所センター水質環境部長兼大気環境部長
大森 利春	香川県環境森林部次長兼環境管理課長
岡本 亮	(財)広島県環境保健協会環境生活センター長
北村 弘行	元（社）瀬戸内海環境保全協会参与
富岡 寛美	兵庫県健康生活部環境局水質課長
西田 正憲	奈良県立大学地域創造学部教授
橋詰 博樹	(財)地球環境戦略研究機関APNセンター長
久野 武	関西学院大学総合政策学部教授
藤井 正美	元神戸学院大学薬学部教授
松本 公治	関西電力株式会社環境室環境技術グループマネジャー
眞鍋 武彦	(財)国際エメックスセンター技術アドバイザー
宮川 裕	(株)神戸製鋼所環境エネルギー部長

湯浅 一郎 (独) 産業技術総合研究所中国センター主任研究員  
鷺尾 圭司 京都精華大学人文学部教授

### 3. 事務局職員等 (18. 3. 31 現在)

常務理事	中嶋 國勝
顧問	櫻井 正昭 ( (財) 自然公園財団専務理事)
事務局長兼業務課長	佐藤 善己 (兵庫県からの出向)
参事兼総務課長	高木 敏一
主査	中井 純子
主査	清水 孝則 (国土環境株からの出向)
主任	守安 雅代

## II 事業

### 1. 普及活動及び活動支援事業

#### (1) 平成17年度(第33回)瀬戸内海環境保全月間事業の展開 (17. 6. 1 ~6. 30)

瀬戸内海関係地域住民並びに関係者に対して、広域的な瀬戸内海環境保全意識の高揚を図るため、会員並びに関係諸団体の協力を得て、広く公募した作品によりポスターを作成、これを掲示するとともに、パンフレットの配布などを行った。

- ・平成17年度瀬戸内海環境保全月間ポスターの公募最優秀作品  
香川県高松市立林小学校2年生 山崎 真琴さんの作品

#### (2) 平成18年度(第34回)瀬戸内海環境保全月間ポスターの公募 (期間: 17年7月7日~11月30日)

18年度瀬戸内海環境保全月間に向けて、環境省、瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携してポスターの原画を募集した。

ポスター選定委員会の開催 (平成18年2月14日)

応募数 子供部門: 89

一般部門: 198 総数: 287

#### (3) 瀬戸内海環境保全普及活動推進事業の実施

##### ① 瀬戸内海環境保全セミナーの実施

環境保全活動を推進するため、環境保全意識の高揚及び人材育成、情報発信等を目的として瀬戸内海環境保全セミナーを開催した。

ア 中国ブロック (平成17年12月22日 ピュアリティまきび)

テーマ: 瀬戸内海一里海について考える

講演: 瀬戸内海における里海とは

講師 九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄

パネルディスカッション: 環境保全・再生の実践活動を進めるために

コーディネーター	九州大学応用力学研究所教授	柳 哲雄
パネリスト	日生町漁業協同組合代表理事組合長	本田 和士
	榎野川河口域・干潟自然再生協議会会長代理	鬼頭 鈞
	岡山県作陽高等学校教諭	神田 寿則

参加人数：128名

イ 近畿ブロック（平成18年3月29日 ホテル第一堺）

テーマ：大阪湾再生を進めるために

講演：大阪湾の現状と再生に向けた課題

講師 大阪市立大学大学院工学研究科教授 矢持 進

パネルディスカッション：大阪湾再生に向けた取り組みを進める

コンビーナー (社) 瀬戸内海環境保全協会常務理事 中嶋 國勝

パネリスト 国土交通省近畿地方整備局港湾空港部地域港湾空港調整官

小林 郁美

大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課課長補佐

柳川 和彦

堺市漁業協同組合連合会代表理事会長

高田 利夫

NPO法人釣り文化協会代表理事

來田 仁成

参加人数：85名

## ②瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムの実施

新たに瀬戸内海の環境保全のための業務に従事することとなった会員団体職員を対象に研修会を開催した。

日時：平成17年10月5日～7日

場所：オーキドホテル（香川県小豆島）

講義：瀬戸内海の環境保全の歩みと再生方策

講師 広島大学名誉教授 松田 治

瀬戸内海の（自然・歴史）風景とツーリズム

講師 奈良県立大学教授 西田 正憲

瀬戸内海を取り巻く課題

講師 環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室主査 浅見 尚史

里海学ー太く、長く、滑らかな物質循環ー

講師 九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄

豊島問題と島づくり

講師 香川大学名誉教授 岡市 友利

瀬戸内海沿岸域での諸問題（温暖化・アスベスト・埋立）

講師 関西学院大学総合政策学部教授 久野 武

現地研修

豊島廃棄物等中間処理施設（直島環境センター）

豊島廃棄物処理施設・現地見学（豊島）

班別討議・全体討議

参加人数：22名

(4)平成17年度瀬戸内海的环境保全に関する衛生団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議／香川県地区衛生組織連合会／（社）瀬戸内海環境保全協会

日時：平成17年10月17日～18日

場所：ウェルシティ高松

基調講演：瀬戸内海をめぐる最近のトピックス ―地球温暖化の影響など―

講師 関西学院大学総合政策学部教授 久野 武

体験交流・意見交流：各府县市連合会の実践活動報告

見学：豊島廃棄物等中間処理施設（直島環境センター）、地中美術館等

参加人数：延べ161名

(5)賛助会員による瀬戸内海環境保全事業の展開

①平成17年度瀬戸内海環境保全月間行事（平成17年6月1日～30日）への積極的参加

- ・月間ポスター等の提示による普及啓発活動の実施
- ・月間中の環境行事の実施及び取りまとめ

②平成18年度瀬戸内海環境保全月間ポスター公募への協力

③総合誌「瀬戸内海」の配布と投稿

④賛助会員研修会の開催

日時：平成17年11月25日

場所：神戸空港建設地、ラッセホール

見学：神戸空港建設地

講演：昨今の港湾行政について

講師 国土交通省近畿地方整備局港湾空港部

参加人数：30名

⑤瀬戸内海環境保全研修会の開催

主催：（社）瀬戸内海環境保全協会／兵庫県瀬戸内海環境保全連絡会

日時：平成18年2月17日

場所：兵庫県農業共済会館

講演：森・里・海の統合テクノロジー ―環境考古学の視点から―

講師 国際日本文化研究センター教授 安田 喜憲

土壌環境行政の最近の動きについて

講師 環境省水・大気環境局土壌環境課長 鏑木 儀郎

参加人数：114名

(6)瀬戸内海スナメリ発見情報プロジェクト実践事業の展開

沿岸域住民の瀬戸内海に対する理解や関心を深め、自主的な取り組みを推進するための契機となるよ

う平成11年度から実施しているスナメリ発見情報プロジェクトを引き続き展開するとともに、公募したスナメリのマスコットイラスト及び愛称「ほのぼのん」を広く活用し、瀬戸内海の環境保全活動を行った。

(7) (社) 瀬戸内海環境保全協会設立30周年記念事業の実施

平成18年度が、当協会設立30周年の節目の年に当たることから、これを契機に瀬戸内海の環境保全への理解を深めるための記念事業を行うこととし、企画委員会において企画内容を検討した。

また、代表的な瀬戸内海（沿岸域を含む）の風景を記録にとどめ、環境保全と今後の活動の基盤とするため、「せとうち風景フォトコンテスト」の募集（平成18年2月27日～9月30日）を開始した。

(8) 環境保全活動テキストの発行

沿岸域の環境保全活動に資するため、瀬戸内海研究会議が環境事業団地球環境基金（現：(独) 環境再生保全機構地球環境基金）の助成を受けて編集・作成した環境保全活動テキスト「瀬戸内海とわたしたちー森～川～海からひと・くらし・いきものを考えよう」を協会印刷、発行した。

(9) 瀬戸内海環境保全パネルの貸し出し・展示

瀬戸内海の環境保全の普及・広報活動に資するため「瀬戸内海の環境保全パネル」をイベント等に展示・活用する目的で貸し出しを行った。また、ひょうごエコフェスティバルにおいても展示し、広報を行った。

(10) 各種環境保全事業への協力

第五管区海上保安本部が中心となって実施している大阪湾クリーン作戦（6月1日～30日）に協力し、ポスター配布、ごみ回収を行った。

(11) 環境NGO/NPOとの連携・支援

瀬戸内海における自然環境等の保全に努める環境NGO/NPOとの連携・支援を行った。

また、海のアースデイ・詫間in Awashimaにおいて、スナメリのパネル展示、せとうちネットの広報を行った。

## 2. 指導・助成

各種環境保全活動事業に対する助成

漁業団体、環境衛生団体が実施する研修会、海浜清掃、生活排水への意識啓発等の環境保全活動事業に対しその活動費用の一部を助成した。（助成団体数 18団体）

## 3. 情報収集・発信事業

(1) 瀬戸内海研究・環境等情報ネットワークシステム（「せとうちネット」）の管理・運営

瀬戸内海に関する水質等環境情報や社会経済、文化・歴史等情報、各種調査研究成果等多様な情報の提供を目的として平成10年度に構築した「せとうちネット」の的確な管理・運営に努めるとともに、環境省の委託等により情報、データの追加・更新を行った。

① 17年度の追加項目

- ・過去の海洋汚染情報
  - ・瀬戸内海の島探索（島情報の更新）
- ②せとうちネット管理運営委員会（委員長：柳 哲雄九州大学応用力学研究所教授）
- 開催日：第1回 平成17年9月2日  
第2回 平成18年3月13日

(2) 総合誌「瀬戸内海」の発行及び配布

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を次のとおり発行配布。

- ・発行回数：年4回
- ・平成17年 6月 第42号
- ・平成17年 9月 第43号
- ・平成17年12月 第44号
- ・平成18年 3月 第45号

(3) 資料集「瀬戸内海の環境保全ー平成17年度版ー」の発行及び配布

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、収録した資料集「瀬戸内海の環境保全ー平成17年度版ー」を発行配布。

(4) 協会ホームページの充実

当協会の活動紹介及び環境情報等の発信に努めた。

#### 4. 調査・研究事業

(1) 瀬戸内海環境情報基本調査(継)（環境省より受託 平成13年度～平成17年度）

瀬戸内海の環境の状態を継続的に把握し、環境保全に係る諸施策の効果を検証することにより今後一層実効的な施策の検討、推進に資するため、これまで概ね10年を周期として実施してきた基本調査を実施した。

①底質・底生生物調査(継)（平成13年度～）

昨年度に底質・底生生物を実施した関係水域（安芸灘・周防灘）に係る解析調査及び文献調査を実施するとともに、平成13～16年度の実態調査を受けて、平成17年度は総合解析を行った。

調査項目：解析調査・文献調査（安芸灘・周防灘）及び総合解析調査

②サンプルバンク活用調査(予備調査)（新）（平成17年度）

昭和56（1981）年以来、上記瀬戸内海環境情報基本調査で採取され、各公害研究機関で分担・保管されている表層試料及びコア試料（サンプルバンク試料）を活用し、これらの試料を分析することにより、瀬戸内海における底質環境の変遷と環境対策の検証等を行う。平成17年度は、大阪湾、燧灘等を対象に予備的な調査として実施した。

調査項目：底質中の窒素及び炭素安定同位体比と腐植物質組成調査

底質中の生物遺骸を利用した生物生息環境の変遷調査

コア試料中の堆積年代の計測

委員会：検討委員会（委員長：塩沢孝之前広島県産業科学技術研究所副所長）

開催日：第1回 平成17年9月15日

第2回 平成18年3月8日

(2) 海岸漂着ごみクリーンアップ作戦受託事業(継) (兵庫県より受託 平成15年度～平成17年度)

海に囲まれた淡路地域においては、海岸の環境保全、美観維持を推進する上で海岸漂着ごみ処理対策が地域の重要な課題となっている。

兵庫県では、美しさ溢れる環境立島「公園島淡路」の実現を目指すため、住民の参画と協働のもとにボランティアを中心とした「淡路島里海保全隊」を組織し、海岸漂着ごみの回収活動や調査の実施、海岸漂着ごみの防止対策の展開を図るなど、「海岸漂着ごみクリーンアップ作戦」事業を進めている。

本事業のうち、リセットクリーンアップ事業（住民の参加、協力のもと海岸に漂着している人工ごみ等を一度リセット、回収ごみの調査）、海岸漂着ごみモニタリング調査（リセットした海岸において、一定期間にわたって漂着ごみの組成等の調査）等を行った。

## 5. 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進を支援し、協力した。

(1) 瀬戸内海研究会議事務局

瀬戸内海研究会議の事務局として、円滑な事務運営と会員との連絡調整を行うとともに、事業を適切、効率的に遂行した。

(2) 「瀬戸内海研究フォーラムin奈良」及びワークショップの開催等に対する支援・協力を行った。

① 瀬戸内海研究フォーラムin奈良

テーマ：水・風景・物語の瀬戸内海 ―古都からのアプローチ―

開催日：平成17年9月8日～9日

場 所：なら100年会館

② 瀬戸内海研究会議ワークショップ

テーマ：瀬戸内海の再生に向けた包括的アプローチ

開催日：平成17年11月30日

場 所：神戸市教育会館

## 6. 国際的な活動への参加と協力

(財) 国際エメックスセンターが行う国際的な活動に対し、参加、協力を行った。

- ・ シンポジウム「沿岸域の環境修復・再生の実現に向けて『都市沿岸域の“再生医術”』―修復技術のベストミックス―」への後援・参加
- ・ EMECS 7参加及び英国エコプロジェクト調査ツアー実行委員会への参加・広報

## 7. その他関連事業

### (1) 国に対する要望

協会が実施する事業及び調査研究の拡充強化並びに本協会の運営への配慮等について国に要望した。

#### ①瀬戸内海的环境保全に関する要望

要望事項：1. 瀬戸内海環境保全のための普及活動、環境教育事業及び参加型環境保全活動事業の推進

2. 瀬戸内海的环境データの収集とデータベース機能の充実

3. 瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造並びに自然再生の推進に関する調査研究

4. 瀬戸内海の汚濁メカニズムの解明と富栄養化防止に関する調査研究

5. 瀬戸内海の内環境及び水環境保全に関する調査研究

6. 瀬戸内海の化学物質等による環境影響に関する調査研究

7. 各種開発事業等に係る環境影響評価及び環境管理技術に関する調査研究

8. 瀬戸内海研究会議の調査研究及び教育活動の拡充強化

要望日：平成17年7月20日

要望先：環境省、財務省、国土交通省、水産庁

#### ②瀬戸内海的环境の保全と再生に関する特別要望

要望事項：瀬戸内海の生物多様性を確保し、水産資源の回復等豊かな海として再生を図るとともに、美しい自然とふれあう機会の提供等のための法整備について

要望日：平成17年9月22日

要望先：環境省、内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省  
水産庁

### (2) 瀬戸内海環境保全知事・市長会議との協調

瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携を密にし、協調して事業実施に当たった。

### (3) 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進に努めた。